



公益財団法人SAJ  
**SAJ Farm 通信**  
No.1 2010年 創刊号

公益財団法人  
**School Aid Japan**  
〒144-0043  
東京都大田区羽田 1-1-3  
TEL: 03-5737-2773  
FAX: 03-5737-2793  
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>  
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

# ～SAJ Farm 創業の第一歩～ 喜びの笑顔の中、みんなで田植え！

7月22日、SAJ Farmで田植えが行われました。「夢追う子どもたちの家」の74人の子どもたち、渡邊美樹代表理事、住田平吉事務局長、みんなで力を合わせての田植えです。田んぼには、子どもたちの喜びの笑顔があふれていました。

SAJがこのカンボジアで活動を始めてから、この国の現実が一つ一つ変わっています。孤児院に来る前は、苦しさや悲しさの中で田植えの仕事をしたり、カゴを編んだりしていた子が、この日は喜びの笑顔の中で田んぼに一つ一つ苗を植えていました。カンボジアでのSAJの農業が、この日、大きく第一歩を踏み出しました。



**みんなで田植え！！**

カンボジアの首都プノンペンから車で1時間、スピエンポーという場所にSAJ Farmがあります。12.5haという広大な地です。この大地にSAJはFarmを3年間で完全循環型の有機農場に作りかえ、農場技術トレーニングセンターを立ち上げます。

SAJ Farmでは職員一同、5月中旬からこの大地で本格的に活動を行い、7月22日の田植えの準備を進めてきました。今年は、この地区では雨季に入っているにもかかわらず、一週間も雨が降ることがないことがあるなど、深刻な水不足に陥っています。またこの季節、日中の気温は40度近くにもなります。そんな猛暑の中、水田を耕し、有機肥料を施し、種を撒いてきました。

この日の田植えのための苗の芽が出た朝、これで子どもたちのために田植えが出来ると安堵し、嬉しく思いました。



**記念撮影**

当日、「夢追う子どもたちの家」の子どもたちは、朝6時に孤児院を出発し、バスで3時間半かけて農場に駆けつけてくれました。また、遠く日本からは渡邊代表理事が来ていただきました。そして、住田事務局長は一ヶ月も前から田植えの準備を手伝いに来ていただきました。

子どもたちの中には、2、3歳の頃から、田植えの手伝いをしている子もいました。でもこの日は、以前のように悲しみや苦しみの中での作業としてではなく、楽しみながら、まるで田植えが自分の特技であるかのように、プロ並みに上手に素早く苗を植えていました。本当に笑い声のたえない楽しい田植えでした。

また、この日は田植えに先立って、渡邊代表理事、住田事務局長、SAJ Farm スタッフとの間で3年後のビジョンについて話し合いが行われました。この12.5haの大地を、どういう形で有機農場にしていくのか。水田、畑、池、家畜小屋、研修施設をどう組み立てるのか。そして、各々の規模、コスト等が話し合われました。

SAJがこのカンボジアの地で活動を始めてから10年が経ちました。「学校建設支援」に始まり、「ふれあいサポートプラン」、「朝給食（食糧支援事業）」、そして「夢追う子どもたちの家」とその活動の輪は広がってきました。

そしてこの11年目、新たな事業として、SAJはカンボジアでの就労支援事業・農業を始めました。「食」と「職」を通して、この国をより豊かにしていきたいからです。これからも、たゆまなく一つ一つこの国の現実を変えていく努力をしたいです。一つでも多く、悲しみの涙を喜びの笑顔に変えていきたいと思います。カンボジアでの農業、SAJ Farmのスタートです！

## SAJ Farm スタッフ紹介

飯島正行と申します。主に技術の面を担当します。担当がそうなるのも今まではワタミファーム瀬棚農場で野菜を育てていたからです。

実は、去年の忘年会の際に「カンボジアで農業をやってみないか」と声がかかり二つ返事でこちらに来てしまったわけです。直ぐに決断できたのは、以前から「国際協力」を農業と言う業種でやってみたいと思っていました。それはネパールの奥地で学校にも通えず、小さい頃から両親と仕事をしている小さな子どもたちは、貧しいけれどもその笑顔がとてもすばらしく、その笑顔がもっと普通の幸せとともに広がったらどんなにすばらしいことかと思っていました。仕事の面ではまさに夢がかなった形になります。よろしくお願ひします。



みなさんはじめまして、五月女知弘と申します。大学2年次のときに渡邊代表理事の話を聞きカンボジアに関心を持つようになり、大学4年次にインドを旅した後、カンボジアのキリングフィールドに来ました。そこで地中に埋まる骨を見たとき、「この国の歴史は間違った、自分はこの国を変える。」と心と体に強く刻みました。

農業のことを何も知らないで乗り込んできて何が出来るか、と思われそうですが、私には思いと覚悟があります。日本で私を支えてくださっている方々に感謝しながら、たゆまない正しい努力と研鑽を積み、この国の子どもたちが自らの運命を自ら切り拓くことが出来るまでにこの国を豊かにしていく支援をしていきます。これから、どうぞよろしくお願ひいたします。